

概要

日本図学会は、学会誌『図学研究』を年4回発行している。本稿は図学研究に投稿する原稿の執筆要領である。執筆にあたっては、本要領と本学会の投稿規定に従い作成すること。なお本ファイルは論文執筆のためのテンプレートともなっている。また、内容については、著者が全責任を負うものとする。

キーワード：図学論／設計論／造形論／平面幾何学／空間幾何学

Abstract

This paper presents the instructions for formatting papers to be submitted to *Journal of Graphic Science of Japan*. This paper itself is formatted according to the formatting rules. Use it as a model and edition template. This document is supplied as a Microsoft Word file containing preformatted styles.

Keywords: Theory of graphic science / Theory of design / Theory of plastic arts / Plane geometry / Space geometry

1. 原稿種別とページ数

原稿は論文、資料、記事、会告・事務局報告に大別され、さらにその内容および長さによって細分される。掲載原稿の先頭ページに種別が明示されるので、投稿時に申告すること。論文および資料は査読後、掲載の可否が決定される。ページ数は原稿種別により以下の通りとする。

1.1. 論文

1.1.1. 研究論文

6～10ページを基本とし、偶数ページとする。

1.1.2. 研究速報

4ページ以内を基本とし、偶数ページとする。

1.2. 資料

1.2.1. 研究資料

4～10ページを基本とし、偶数ページとする。

1.2.2. 教育資料

4～10ページを基本とし、偶数ページとする。

1.2.3. 作品紹介

4ページ以内を基本とし、偶数ページとする。

1.2.4. 図学ノート

2ページを基本とする。

1.3. 記事

1.3.1. 巻頭言

編集委員会の依頼に基づく自由な論説。ページ数は編集委員会の指示に従う。

1.3.2. 解説

偶数ページとする。

1.3.3. 講座

偶数ページとする。

1.3.4. 文献紹介

1ページを基本とする。

1.3.5. 新刊紹介

1ページを基本とする。

1.3.6. 寄書

半ページ以上とする。

1.3.7. 大会要旨

編集委員会の指示に従う。

1.3.8. 研究会・研究会議・支部研究会報告

編集委員会の指示に従う。

1.3.9. リレーエッセイ

編集委員会の指示に従う。

1.4. 会告・事務局報告

大会等開催記事、各種会議会告、支部行事開催記事、事務局および編集委員会が必要とする記事、他学会開催通知、教員公募、理事会議事録など。ページ数は編集委員会の指示に従う。

2. 原稿の構成と書式

論文および資料の原稿は、本ファイルをテンプレートとして用いて文章と図・表をレイアウトして作成すること。A4サイズを縦位置に使用し、余白を上19mm下27mm左右21mmとする。横書きとし、表題・著者名以外を2段組とする。

なお、査読を受ける原稿は、著者名、所属および謝辞を含めず、pdf形式とすること。掲載決定後の入稿原稿では、著者名および著者紹介を含め、word形式で提出すること。

次のようなページ基本構成にする。

- ・ 1ページ目9行まで一段組み: 表題, 英文表題 (掲載決定後は続けて著者名・英文著者名)
- ・ 1ページ目10行目以降, 左段: 概要, キーワード, Abstract, Keywords
- ・ 1ページ目10行目以降, 右段以降: 本文, (掲載決定後は謝辞), 注, 引用・参考文献
- ・ 最終ページ右下: (掲載決定後は著者紹介)

2.1. 表題

内容を簡潔に、しかも具体的に表現するような単語を入れて、和文(原則として48字以内)と英文でつける。研究に連続性がある場合には内容を具体的に示す副題をつける。副題の前後にはダッシュを付し、原則として48字以内とする。

書式は左揃え、フォントは14ptの明朝体とすること。

2.2. 著者名 (査読を受ける原稿には含めない)

研究すべてにわたって内容を理解し責任を負える立場の人が連名者になる。和文と英文(名 姓)で入れる。

和文は10ptのゴシック体、英文は10ptのゴシック体(斜体)とすること。

2.3. 概要とキーワード

論文および資料には、概要とキーワードを記すこと。概要は、内容を短く要約したものを、和文200字から400字以内、英文200 words以内で簡潔に記述する(ただし作品紹介では和文100字から200字、英文100 words以内とする)。また、和文・英文要約の最終行にそれぞれ5~7語を記述すること。ただし、第一キーワードは図学会が定めた下記の基本分類キーワードとする。記事については和文・英文概要およびキーワードは必要としない。

フォントは8ptの明朝体とすること。

基本分類キーワード:

図学論/設計論/造形論/平面幾何学/空間幾何学/応用幾何学/形態構成/CG/形状処理/画像処理/CAD・CADD/図学教育/設計・製図教育/造形教育/教育評価/空間認識/図学史

Theory of descriptive geometry / Theory of design / Theory of plastic arts / Plane geometry / Space geometry / Applied geometry / Composition / CG / Geometric processing / Image processing / CAD・CADD / Education of graphic science / Education of design and drawing / Education of plastic arts / Educational evaluation / Spatial cognition / History of graphic science

2.4. 本文

全体の文字数は刷り上がり見本^{注1)}を参照し、見出し、図版、表、最終ページの著者紹介分などのスペースを考慮し、規定のページ数に余裕をもっておさまるようにする。

フォントは10ptの明朝体とすること。

印刷仕上がりページ文字数:

第1ページ目: 875字 (25字詰め×35行)

第2ページ以後: 2200字 (1ページ=25字×44行×2段)

2.4.1. 節・小節・項

a. 節

節(大見出し)は前の文章から1行あける。節のナンバーは半角アラビア数字+半角ピリオド(.)とし、半角スペースを空け、続けて節名を記す。改行後、次の文章を続ける。

フォントは12ptのゴシック体とすること。

b. 小節と項

小節(中見出し)・項(小見出し)は前の文章から行をあげない。小節・項のナンバーは、「1.1.1.」というように、半角アラビア数字とピリオド(.)で表示し、半角スペースを空け、続けて小節名・項名を記す。改行後、次の文章を続ける。

フォントは10ptのゴシック体とすること。

c. 細目

項を更に細分する場合には、小文字アルファベットa, b, ...を用い、行頭より1文字分あけて、ピリオド(.)の後、細目名をつけ、改行後、次の文章を続ける。

フォントは本文と同じとすること。

2.4.2. 図・写真・表

内容を的確に伝えるために、必要最低限のものを載せる。また、文章中に簡潔に内容を説明する。なお、他人の図表を転載する場合には、必ずその旨明示するとともに、著作権にかかわるものを使用する際は著者の責任をもって事前に処理する。

図・表は独立に通し番号をつけ、図1, 表1のように日本語で表し、これに続けてキャプションをつける。キャプションは、10ptゴシック体・左揃えとし、図の場合は図の下、表の場合は表の上に配置する。キャプション内に簡易な説明を付加する場合は改行し、10pt明朝体左揃えで括弧内に入れること。なお、写真は図として扱う。

図・表は本文中の適切な位置にレイアウトすること。ただし、発行される記事では図表のレイアウトに若干の変更が生じることがある。下記に例を示す。



図1 日本図学会ロゴ

(1995年制作。デザイン：佐々木仁)

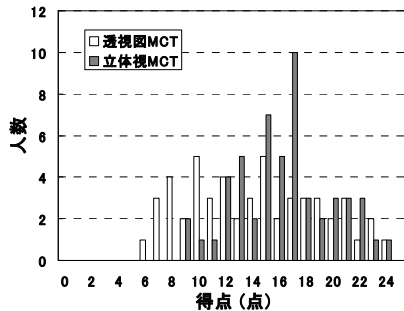


図2 得点分布

表1 平均得点

| | 透視図 | 立体視 | 差 |
|-------------------|------|------|-------|
| 本調査 | 14.2 | 16.3 | 2.1 * |
| 堤ら ^[5] | 13.7 | 14.0 | 0.3 |
| 姚ら ^[4] | 21.4 | 21.9 | 0.5 |

2.4.3. 謝辞 (査読を受ける原稿には含めない)

見出しをつけずに、本文末尾から一行あけて書く。

2.5. 脚注

本文中では挿入箇所の右肩に^[注1]、^[注2]のように記号をつけ、本文最終行から1行あけて、同一の記号を行頭につけて列記する。

2.6. 参考文献

参照・援用したデータや考えなどが、他の文献から得たものである場合は、本文中で出典を明記すること。

2.6.1. 文章中の参照

文章中では参照箇所の右肩に^[1]、^[2]~^[6]のように角括弧ではさんで通し番号をつける。参照した文献は、本文中で参照した順に番号を振り、本文末尾にまとめて記載する。

2.6.2. 記載の形式

a. 論文の場合

著者氏名，“表題”，誌名，巻号（発行年），頁。

* 欧文の著者は姓，名（頭文字）の順に記す。

* 欧文の誌名は斜体とする。

- [1] 鈴木学，“透視図に関する研究”，図学研究，32.2（1983），1-6.
- [2] Cooley, J. and Turkey, J., “An Algorithm for the Machine Calculation of Complex Fourier Series”, *Math. Comput.*, 19 (1965), 297-301.
- [3] Kajiyama, K., “Design of Computer Assisted Learning System for Reading a Drawing”, *Proc. 6th ICGG* (1994), 267-271.

b. 単行本の場合

著（編）者名，書名，発行所名（発行年）。

* 欧文の著者はFamily Name, First Name のInitialとする。

* 欧文の書名は斜体とする。

[4] 小山清男，幻影としての空間，東信堂（1996）。

[5] Klotz, H., *20th Century Architecture*, Rizzoli (1989).

c. その他：単行本掲載論文

著者，“表題”，単行本の編者，書名，出版社（発行年），頁。

* 欧文の書名は斜体とする。

[6] 小山清男，“ルネサンス絵画の空間表現”，日本図学会編，*美の図学*，森北出版（1997），221-230.

[7] Evance, R., “Architectural Projection”, Blau, E. and Kaufman, E. (eds.), *Architecture and Its Image*, Canadian Center for Architecture (1989), 18-35.

2.7. 付録

本文とは別に付録を参考文献の後に加えることができる。

2.8. 著者紹介 (査読を受ける原稿には含めない)

本編の最終段・最下行に、著者名の読み（ひらがなで1行分）、所属、生年月日、経歴、研究領域、論文・著書、連絡先（Email or 住所を1行分）などを、1名につき200字以内に記す。

3. 表記

3.1. 文体

文章は原則として日本語の口語体を用い、欧文または片仮名書きを必要とする部分以外は漢字まじり平仮名書きとする。

3.2. 句読点と括弧類

文章中の句読点は、ピリオド（. ），カンマ（, ），中点（・），コロン（: ），および各種括弧などはそれぞれ1文字分用いるが、印刷組版の際、禁則処理などの都合でスペース調整する場合がある。

3.3. 外国語

外国の地名、人名などの固有名詞は原文表示とするが、一般化されているものは片仮名でよい。

3.4. 用語

原則として文部科学省編「学術用語集」，「JIS 用語集」，日本図学会編「図学用語辞典」^[1]などに従う。

特殊用語などは脚注をつけること。

3.5. 数字，年号

- ・ 数量を表すとき、あるいは序数的表現の時は半角アラビア数字を用いる。 例：0.5mm，図1
- ・ 年号は西暦による表記を原則とし、半角アラビア数字を用いる。 例：2001年
- ・ 漢字と結合して名称や概数を表すときは漢数字を用いる。 例：三角形，数百の

3.6. 数式

文章と同じ行中にある場合は、1行におさまるように

書く。例： $1/2$, $(x+a)/(y+b)$, $x^{1/2}$

別行に示す場合には、原則として1段の幅におさめ、各式の行の右端には両括弧のアラビア数字で通し番号をつけ、文中で引用する場合には、式(1)のように書く。

例：

さて、考えている楕円面を、

$$z = z_1 \quad (|z_1| < c) \quad (1)$$

で切れば、その切口は、

$$\frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{b^2} + \frac{z_1^2}{c^2} = 1 \quad (2)$$

すなわち、

$$\frac{x^2}{a^2(1 - \frac{z_1^2}{c^2})} + \frac{y^2}{b^2(1 - \frac{z_1^2}{c^2})} = 1 \quad (3)$$

数式は必要最低限にとどめ、詳細が必要な場合には付録にまわす。

3.7. 単位

国際単位系 (SI) に原則として従い、単位に括弧はつけない。

3.8. 字体、記号、まぎらわしい文字

・用語、単位記号、演算記号、数字などはローマン体 (正体) に、量記号、数式などはイタリック体 (斜体) にする (3.6節の例を参照)。

例：円柱 C の体積 V_c は、 $\pi r^2 \times h$ で算出され 785.4cm^3 となる。

・数学記号はJIS Z8201、量および単位を表す記号はJIS Z8202に従う。

4. 投稿手続き

4.1. 新規投稿

本学会のウェブページで提供する投稿システムを用いて電子投稿する。投稿にあたっては、投稿種別を【新規投稿】とし、投稿申し込み票(txt形式)、および原稿(pdf形式)をアップロードする。全ての文字原稿は規定の頁数・文字数内で、前述「2. 原稿の構成と書式」の仕様に準じたものとする。

投稿後、自動応答により論文IDが通知される。その後編集委員会が様式の不備などを確認し、正式な受領通知を行う。自動応答の日を原稿受付日とする。

4.2. 修正原稿の投稿

査読結果は電子メールで通知される。査読結果が修正後査読または条件付採録の場合、再度本学会のWebページで提供する投稿システムを用いて修正原稿を電子投稿する。この際、投稿種別を【修正原稿の投稿】とし、修正前の原稿IDを入力し、修正原稿のpdf形式ファイルおよび、修正内容の説明文をアップロードする。

投稿後、自動応答により新しい論文IDが通知される。

4.3. 最終原稿の提出

掲載決定通知を受けたものは、入稿原稿依頼で指定された方法により、下記を提出する

・最終原稿ソースファイル (Word形式など)

著者名、謝辞、著者紹介を記載すること。

- ・最終原稿のレイアウト見本 (pdf形式)
- ・原稿内で用いた図の高解像度データ (300dpi以上を目安とする)

5. 掲載料

以下に定める掲載料の規定にしたがって納めるものとする (カラー印刷は別料金)。

表2 掲載料

| 刷り上がり の頁数 | 2頁 | 4頁 | 6頁 | 8頁 | 10頁 |
|--------------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 研究論文 | — | — | 50,000 | 70,000 | 90,000 |
| 研究速報 | 20,000 | 40,000 | — | — | — |
| 資料 | — | 40,000 | 60,000 | 80,000 | 100,000 |
| 作品紹介 | 20,000 | 40,000 | — | — | — |
| 図学ノート | 20,000 | — | — | — | — |

(単位 円)

注

- 1) 刷り上がり見本は図学会ウェブページ上に掲載

参考文献

- [1] 日本図学会編, “図学用語辞典”, 森北出版株式会社, (2009).

ずがく きたろう

日本図学会, 1967年5月21日生まれ。

図学教育研究に従事。著書に『図学用語辞典』など。

〒153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1

zugaku.kitaro@graphicscience.jp